



三弦

歴史と特色

三弦は通称三味線とよばれ、邦楽や民謡に欠かせない民族楽器として、芸能遊芸の盛んな金沢に受け継がれているもので、藩政時代東・西・主計町の花柳界を中心に発展した。金沢で製造され始めた年代は明らかではないが、文久2年(1862年)作の三弦が現存している。昭和初期をピークに戦前は玄人が主であったが、戦後は邦楽の普及や民謡ブームのため素人にも広まり需要は増加してきている。

規格品であきたらない演奏者の高級品を求める声もあるが、あくまで音色が重視され、義太夫、常盤津、清元、地唄、長唄、民謡と多種多様の需要に対応できる高度な技術保持者は少なくなってきている。材料は固い木がよく、棹の最高級品はインド産の紅木、次いで紫檀、果林である。胴はすべて果林を用い、皮は猫又は犬の皮を用いている。

역사와 특색

산견은 샤미센이라고도 불리며, 예능이 번성한 가나자와에 전해져오고 있는 민속악기이다. 봉건시대에는 산차야가이를 중심으로 발전돼 왔으며, 가장 오래된 것으로는 1862년에 만들어진 산견이 보존돼 있다. 재료는 줄을 매는 길쭉한 부분은 인도산 홍목, 자단, 모과나무 등의 단단한 나무이며 몸통은 모과나무이다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	金沢市(가나자와시)
主な製品名(주요 제품명)	三味線(샤미센)
主な生産者(주요 생산자)	福島三弦店(후쿠시마 산견 상점) 〒920-0831 金沢市東山1-1-8(가나자와시 히가시야마 1-1-8) TEL (076)252-3703 安田琴三弦店(야스다 고토산견 상점) 〒921-8031 金沢市野町2-2-32(가나자와시 노마치 2-2-32) TEL (076)241-1423



太鼓

歴史と特色

慶長14年(1609年)加賀藩主が播磨から革細工の名人と言われた佐衛門五郎を金沢に招いたのが始まりと言われている。加賀藩は外様大名であったため、武芸より文化芸能に力を入れたことで、軍事用の外、能楽、雅楽、神事、仏事、祭礼用の楽器として太鼓の需要が多かった。明治以降も順調で、昭和初期には県内で10軒程度が製造していたが、第2次世界大戦中1軒に整理され、現在も伝統技術を伝えている。原木のケヤキ、セン等の乾燥から始める一貫作業で、皮の処理に昔ながらの技法を用いることや、霊峰白山より流れる手取川の水質がよいため、皮が丈夫で音が良いことで全国に知られている。特に、胴の長さ2.5m、皮の直径2m以上の大太鼓も製作し注目を集めている。

역사와 특색

가가번에서는 문화예능면에 힘을 기울이고 있었기 때문에, 노가쿠, 아악, 제사, 불사, 제례용의 악기로 북의 수요가 많았다. 가가다이코라고 하는 가가북은 가죽이 튼튼하고 좋은 소리가 나는 것으로 알려져 있다. 길이 2.5m, 가죽의 직경이 2m 나 되는 큰북도 제작돼 눈길을 끌고 있다.

▶ 情報 정보

主な生産地(주요 생산지)	白山市(하쿠산시)
主な製品名(주요 제품명)	長胴太鼓(나가도다이코)
主な生産者(주요 생산자)	(株)浅野太鼓楽器店((주) 아사노 다이코 악기점) 〒924-0051 白山市福留町587-1(하쿠산시 후쿠도메마치 587-1) TEL (076)277-1717